

これだけは知ってほしい！～がんになったときの在宅支援～

大阪市立総合医療センター患者支援センター

医療ソーシャルワーカー 大濱江美子

みなさんは、「がんになったときの在宅支援」と言われてもピンとこないですよ
ね・・・私も医療ソーシャルワーカーとして、がん患者さんの療養生活をコーディネートする仕事をしていなければ、きっとピンときません。

例えば、40歳代で介護保険を使って介護ベッドをレンタルするとか、しんどくなった時には、訪問看護師さんや在宅医の先生が夜間でも相談にのってくれるとか・・・しかし、実際に通院されているがん患者さんでさえ、「自分にはまだ在宅サービスなんて必要ない」と見過ごしておられることも多く、去年の市民医学講座（大阪がんフォーラム）で説明させていただいた際にも「はじめて知った」とか「事例を使った説明を聞いてみて、自分も使ってみようと思った。」といった感想を多くいただきました。

そこで、今回の市民医学講座では、皆さんに小冊子をお配りする予定にしています。

内容は、ある50歳代のがん患者さんが、どんなタイミングで、誰からどんな説明を受け、どんな在宅支援を利用されたかを事例形式で紹介しつつ、制度や費用面の解説を加えたものです。

みなさんに少しでも分かりやすく伝えるために、私なりに試行錯誤して作りましたが、完成形ではありません。むしろ、患者さんやご家族、関わるスタッフ、地域の関係機関などの意見を聞きながら、柔軟に形を変えていけるものになればよいなあと考えていますので、ぜひ会場にてご一読いただき、ご意見もいただければと思っています。